

今渡地区懇談会での主な意見

日 時 令和元年 8 月 13 日（火）午後 7 時 30 分～ 9 時 00 分

場 所 今渡地区センター

出席者 31 人

- 市長による講話「明智光秀～可児から雄飛した麒麟児～」の後、質疑応答が行われました。

講話に関する意見交換

【意見】大河ドラマ関連事業予算及び費用対効果について

【回答】今年度は、大河ドラマ館や関連施設の予算として約103,000千円と、明智城址などの観光施設の整備や交通対策、市のPRや広報関連の予算として約45,000千円を合わせて約148,000千円を計上しています。

主な内容は、市と産業経済団体や金融機関、自治連絡協議会などの代表で構成される、大河ドラマ「麒麟がくる」活用実行委員会への負担金です。

実行委員会では、負担金のほか、大河ドラマ館への入場料収入や県からの補助金などを合わせ、来年度までの2か年で280,000千円の予算を基に施設整備・運営や、イベントを仕掛けていきます。

花フェスタ記念公園内の花のミュージアムを中心に外の広場も活用しながら「明智光秀博覧会」と題し、子供や若い人たちなど幅広い世代にも来てもらうことを目的としています。VRゲームなど最新のアトラクションだけでなく、昔の遊びも体験してもらう企画を考えています。

目標は30万人の来場を目指していますが、これ以上のお客さんを迎えられるよう考えていきます。

経済波及効果は、市独自では算出しておりませんが、これまでの大河ドラマ館の事例を紹介しますと、2016年の「信州上田真田丸ドラマ館」では、103万人が来場し200億円の効果、2017年の「おんな城主直虎大河ドラマ館」は78万人が来場し248億円の効果があったといわれています。明智光秀博覧会では、土産物はもちろんですが、市内を周遊して飲食店などで消費してもらうことが重要だと考えておりますので、民間の方々と協力して進めていきます。

しかし、事業本来の効果は、素晴らしい武将であった明智光秀が生まれ育った街として可児をPRし、そんな素晴らしい街に住む市民としての誇り作りにつなげることや、本市の魅力を全国にPRしていく絶好の機会となると考えて

います。また、観光資源として磨いてきた木曾川左岸遊歩道・鳩吹山周辺の自然や美濃桃山陶、戦国の山城などに足を運んでいただき知ってもらい、大河ドラマ終了後の交流人口の増加につなげていくことが経済波及効果以外の効果と考えています。

【質問】「麒麟がくる」とか、「麒麟児」の「麒麟」の意味は何か

【回答】一般的には架空の生き物、歴史を変えるような人物が現れる前に予兆として出てくる伝説上の動物と言われています。すごい力を持った人が登場することを予告する、才能を持つ動物です。

「麒麟児」は、将来世の中を変える大物になることを予感させるような子どもということで「麒麟児」としています。「麒麟児みつひでクン」は「麒麟がくる」の「麒麟」にかけています。

【質問】ドラマ館は全国で6カ所作られると聞いたが、これは地元の自治体かNHKのどちらが作るものか

【回答】ドラマ館自体はNHKが作りますが、費用は市が出します。NHKはドラマ館の中を作ります。

【質問】全国の6カ所が連携してつながるように作られるのか。

【回答】NHKは6カ所それぞれと交渉しながら作ります。我々自治体は6カ所で協力して繋げていけるよう連絡を取り合っています。